

第 6 回久慈市沖浮体式洋上風力発電検討委員会 議事概要

日 時：令和 5 年 2 月 27 日（月） 14:00～16:00

場 所：久慈市役所 3 階 大会議室及び ZOOMWEB 会議室

出席委員：北澤委員長，田中委員，伊藤委員，佐々木委員[※]，吉田委員，兼田委員（代理：山口氏）[※]，山王委員，横内委員[※]，佐藤委員[※]，高橋委員（代理：菊池氏）[※]，阿部委員[※]，和村委員（代理：本間氏），工藤委員，東山委員[※]，小笠原委員（代理：中村氏）[※]，桑田委員，嵯峨委員，久松委員，谷崎委員，大崎委員 [※]は ZOOMWEB 参加者

1. 主な議事

【議事 1】 第 5 回検討委員会の振り返り

【議事 2】 今年度の進捗状況

【議事 3】 来年度の予定

【議事 4】 その他

2. 主な意見等

【議事 1 関係】

特になし

【議事 2 関係】

・ p13 魚の高付加価値化について，水揚げして冷凍，冷蔵して流通に乗せていくという工程について説明を加えていただきたい。

→承知した。

・ p10 魚礁を用いた漁業協調策のケース想定について，④・⑤の魚礁には対象魚種が書いていないが魚種を問わないということか。これらの魚礁はメンテナンスが必要か。魚礁は最終的に撤去を想定しているのか。

→④・⑤の魚礁は様々な魚種を対象としている。高さを出すことで回遊魚が居着き，誘導礁を移動して，ウスメバル・マダラを定置に誘導する意図がある。

・魚の生活史に合わせ，生息する水深帯に合わせて利用するといった想定が良い。魚礁は基本的にはメンテナンスを行わない。また，天然由来の素材であるため回収はしない。

・ P11，12 リアルタイム情報提供で漁業者がどういうデータに多くアクセスしているか。また，久慈市沖共同調査コンソーシアムと久慈市との関係は。

→リアルタイム情報の情報提供は，アクセス数のカウントのみのため，どのデータが閲覧されているかはわからない。提供情報は，風速，風向，水温，波浪である。使い勝手やどういった情報を活用しているかは今後ヒアリング等追跡調査を行いたい。

→共同調査コンソーシアムと久慈市は直接的な関係はない。久慈市沖の洋上風力発電事業に興味

を持つ企業が多く存在しており、個別で調査を行うと地元漁業者へ負担が大きいため、久慈市の勧めで1つの事業体として調査を実施している。

- ・視察で青森県の漁業者の方が参加対象としたのはなぜか。
→久慈市市場でイカの水揚げが多い漁協から、参加意向のある方に参加いただいた。
- ・久慈市の電力は2基程度で賄えるという記載があるが、全体で久慈市沖に何基建設するかは検討しないのか。
→事業採算がとれる規模を想定している。発電事業者へのアンケートでは、300～700MW規模であれば採算がとれると回答を得ている。
- ・洋上風力の環境アセスメントについて、国で検討中であり、半年～1年でかなり状況が変わってくると思われる。環境省で実証調査等も行っており、実施指標が見えてくるのではないか。久慈市沖は風況調査を使用できれば環境アセスメントの基礎調査部分がカバーできており、これらの関連データの活用ができると迅速な環境アセスメントの手続きに入れる状態であるという認識である。次年度に向けて検討し、先行モデル的にトライすることで、国の検討にも参考になるのではないか。

【議事 3 関係】

- ・本事業としてのまとめとともに、浮体式事業の実施展開に向けてどのような準備をしたらいいのか、また、再エネ海域利用法で次のステージに移った時に向けてどんな準備をしたら良いか検討していただきたい。
→来年度はまとめの年となるため、ご意見に留意しながら進めていきたい。区域指定については今後の動き次第だが、引き続き取り組んでいきたい。
- ・今年度行った漁業者を対象とした勉強会は来年度も実施されるのか。漁業者からの理解を得るには有効と思う。
→漁業者との会話などの進捗に応じてとなるため現在明示できないが、今回いただいた内容も含めて進めていく。
- ・今年度はイカ釣り漁協の方々を対象としたが、この地域に該当する近隣漁協や久慈の漁業者にも参加してもらえるとよい。

【議事 4 その他】

[全体を通しての質問]

- ・関連産業について、資料 4p7 令和 5 年度は、浮体式の場合どういう産業に関連するのかの整理とされているが、資料 3p39 の令和 4 年度の成果では、コミュニケーションに入っていた。コミュニケーションを大きく分けると一般住民向け、漁業者向け、関連団体向けに分けられると思うが対事業者の事業の展開、その後の広がりといったところについては事業性や本体の方に

つければいいのではないか。

→関連産業，地域振興は事業性と少し異なると感じた。今回はコミュニケーションの中で地域振興へ言及があったのでそこに入れた。全体構成でどこに位置付けるか引き続き検討する。

[各委員意見]

- ・漁業協調に関して，今後も丁寧に詰めていただき，丁寧に説明を続けて漁業者との理解を深めてもらいたい。資料にも漁業関係団体の意見も反映させてほしい。
- ・東日本大震災後に八戸港で防波堤の復興工事を行ったとき，工事現場の側に定置網などがあり，漁業者は水中音を大変気にされていた。引き続き漁業者の皆様と良好な関係性を維持し進めてほしい。
- ・関連産業について非常に興味深く聞かせてもらったが，皆様のおしゃっているとおりに丁寧に調査していただき，よい方向に進めてほしい。
- ・商工会で勉強会を行っているが，参考になることがあれば勉強会を開催して欲しい。
- ・着床式洋上風力は複数海域でアセスが出され，秋田県の港湾区域では発電を開始しているが，浮体式の洋上風力発電は国内にないため，本検討委員会が国内での良い先行事例になるように，来年度からも引き続きお願いしたい。
- ・環境省の委託事業としての進捗は順調である印象を受けた。一方で，再エネ海域利用法の有望な海域の選定に向けて漁業団体との調整を進めていく中で厳しい意見があるので，漁業団体者の不安を解消しながら着実に足元を固めて次へのステップを進めるように引き続き丁寧に説明をお願いしたい。
- ・県でも再エネ導入促進を行っている。関係各所との丁寧な調整の上で導入促進を進めていただきたい。県内で発電した電力が県外に出ていくという観点からも今後とも適切に進めてほしい。
- ・岩手県では陸上風力の環境アセスメントが非常に多くなっているが，地域の重要な環境資源への配慮や，地域への事業計画の周知や説明が不十分な事業もある。久慈市では漁業者をはじめ地域の方とのコミュニケーションを重点的にやられているが，引き続き地元が守られるように進めてほしい。
- ・昨年10月に久慈港の長期構想の策定を開始した。また，国・県・市で勉強会を開催している。本委員会での調査や成果を踏まえながら基地港湾として引き続き進めていきたい。
- ・地先の漁業者に限らず関係する野田や洋野などの漁業者の理解が得られるように調整してほしい。
- ・漁業者の理解が重要であり，久慈市が取り組む漁業協調策について参考とさせていただいている。引き続き意見交換等をお願いしたい。
- ・住民からの理解を得ることに時間を十分割いてほしい。漁業が盛んな地域であることから，海に人工物が建設されるという不安を漁業者から拭いけることが第一と感じる。
- ・久慈市漁船漁業者協議会の中でやっと賛成・反対の声が聞こえてきており，ようやく認知もされてきたと感じる。しかし，まだまだ説明不足という点もあるのかと思う。去年度まではコロナなどで集まることは難しかったが，来年度は地元の漁協8地区に直接出向いて丁寧に説明し

意見等を聴いていただきたい。

- ・アンケート結果でも新たな産業や地域振興に期待されている方が多いと感じた。一方で、景観を無視したような他の事業もある。事例を参考にし、ステークホルダーとの良好な関係性を保ちながら進めてほしい。
- ・クリーンなエネルギーを安定して供給できる体制が大事だが、環境・漁業には配慮して欲しい。地域では洋上風力事業に期待する声もあり、引き続き丁寧な対応が重要である。
- ・漁業関係者に対する丁寧な説明は指針に沿って対応してほしい。新たな関連産業の創出への取り組みも始まっているため、地元への積極的な情報提供を行ってほしい。
- ・地元経済への波及効果ははかり知れないものがあると感じている。一方、漁業者ご意見を丁寧にお聴きしなければいけないという大前提がある中で、不足していた部分あったため、来年度はまずは地元漁業者・沿岸漁業組合の皆様にご意見いただくようお願いしなければいけない。引き続きご協力をお願いしたい。
- ・漁業協調と合意形成では、沿岸漁業者だけでなく大臣許可漁業者も利用しているため、どのように合意形成できるのか一番難しいところである。なかなか出口が見えないが、どこかで折り合い、合意いただけるような説明・提示の仕方を来年考えていく必要がある。漁業影響の情報の説明などできることがあれば対応したい。
- ・洋上風力は久慈の地域における20年30年後の将来を規定するインパクトのある事業である。今の子供たちが大人になったときに、漁業との協調、地域との共生を第一として、地域に受容される洋上風力発電の在り方を考えていかなければいけない。取り組んでいると思うが改めて強調する。また、事業を進める上で技術的課題と社会的課題があり、技術的課題はヨーロッパを中心に先行事例・知見の収集を通じて一定程解決できると考える。社会的課題は地元の理解・合意が必須なので、出来る限り丁寧な選択肢を検討しながら行うことが大事である。地域の皆様の意見が最終的な決定に繋がっていく形にしなければならない。
- ・理解醸成は大きな課題である。いただいた様々なご意見をもとに来年度まとめできればと思う。
- ・浮体式洋上風力が地域の中で認知が広がっていると感じるが、さらに地域住民への丁寧な説明が必要である。

[市より情報共有]

- ・漁業者との合意形成について、これまでの実施成果、ゾーニングマップを基に地元及び県内外の漁業者・漁業団体に説明を行ってきた。主な意見として、風車の設置により自分たちの生活に及ぼす影響について懸念がある、事業実施への反対、対象海域の操業状況の把握が不十分、といった意見が寄せられた。また、説明会の内容に関し、事業化が決まった後で説明しているのではないかといった意見もあった。今後の取り組みとしては、これらの意見を踏まえ、改めて漁業操業状況の調査を丁寧に実施しながら合意形成を図る。各漁業団体と相談しながら進めていきたい。

以上